



スプーン介助の基本



食事介助の際、望ましくないスプーン操作を行うことで摂食・嚥下能力を低下させてしまう恐れがあります。逆に、望ましいスプーン操作を行うことで食べる意欲・食べる能力を回復させる可能性があります。今回、教わる機会が少ない食事介助時のスプーン操作の基本について紹介します。

【望ましくないスプーン介助】

①スプーンの根本まで口に入る

舌を動かすスペースがなくなる

②スプーンを斜めに上に引き抜く

頸部が後屈し誤嚥しやすくなる



【スプーン操作の介助のポイント】

Point

①スプーンは下唇に押し当てる

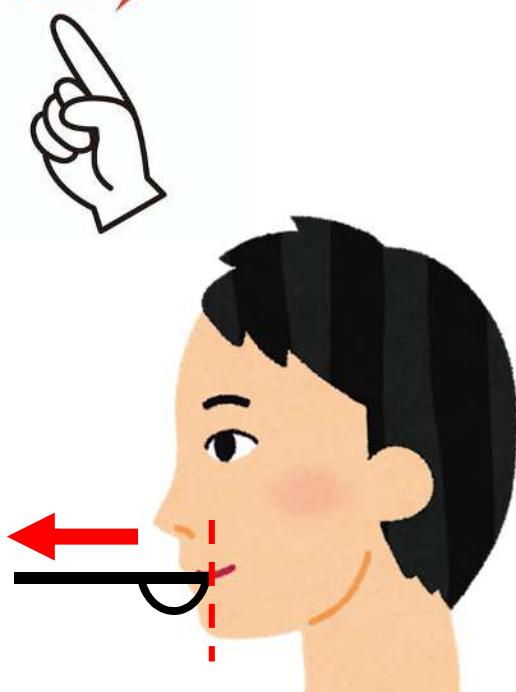
上唇で食べ物を取り込みやすくする

②スプーンを半分程度入れる

舌を動かすスペースを確保する

③スプーンは水平に引き抜く

誤嚥を予防する



●参考資料

認知症のある方も食べられるようになるスプーンテクニック増補改訂版 佐藤良枝 日総研出版 第2版第1刷